青年技術士交流委員会　活動報告

報告日：　2019 年　11 月　17 日

会議名	CAFEO37/YEAFEO26
日時	2019 年 9 月 11 日（水）～9 月 14 日(金)
場所	JIExpo Kemayoran Jakarta, Indonesia
参加者	青年(統括本部)：●河野(記)、●高木、●竹内 青年(中国本部)：金高、立山 一般　　：伊藤、小梶、園家、力石、塚越、長谷川、松山 (●：公費派遣者、五十音順･敬称略)
参加者数	12 名

1．目的

・若手技術者の国際感覚の育成
・ASEAN 諸国の技術者との人脈構築
・当該会議への継続参加による日本のプレゼンス強化
・国際交流に関心を持つ日本人参加者同士の交流

2．概要

会議名：CAFEO37 (37TH Conference of the ASEAN Federation of Engineering Organizations)
YEAFEO26 (26TH Young Engineers of the ASEAN Federation of Engineering Organizations)

期間：　2019 年 9 月 11 日(水)～14 日(金)
場所：　JIExpo Kemayoran Jakarta, Indonesia

3．メンバーが参加した主日程　**※ 基本的に YEAFEO プログラムへ参加し、空いた時間は CAFEO プログラムへ参加。**

Date		Program
9 月 10 日	PM	Welcome Dinner
9 月 11 日	AM	[YEAFEO] Opening
		[YEAFEO] Board Meeting
	PM	[YEAFEO] Office visit
		[YEAFEO] Technical visit “SOSROBAHU”
9 月 12 日	AM	[YEAFEO] Gift exchange [CAFEO] Oral Presentation for CAFEO and for Disaster Preparedness WG
	PM	[YEAFEO] Country Report [CAFEO] Technical tour to AHA center for Disaster Preparedness WG
		[YEAFEO] GALA Dinner
9 月 13 日	AM	[YEAFEO] Technical visit “gojek”
	PM	[YEAFEO] Technical visit “MRTJ”, “Ministry of Public Works” Closing ceremony and dinner
9 月 14 日	AM	[YEAFEO] Technical visit “Menara Astra Tower”
	PM	[YEAFEO] BIDADARI Island Tour

４．成果

４．１　若手技術者の国際感覚の育成

海外の若手技術者とともに各プログラムに参加し、意見交換を行うことでインドネシアを含めた各参加国の文化、宗教、価値観、そして科学技術にまつわる課題（特に SDGs を今後 ASEAN 諸国にどのように取り入れ、それらを各国（ASEAN 諸国間の国際協力も含める）の技術力でどう解決に導いていくのか等）認識を共有することができた。その結果，参加者が常日頃思考のベースとしている日本の常識にとらわれない一段高い視点で物事を捉える素養を培うことができた。また、発表や議論を通じて、英語を用いた国際コミュニケーションの重要性を再確認できた。

４．２　ASEAN 諸国の技術者との人脈構築

各国とプログラムを共にすることで SNS（主に Facebook）にて技術者との繋がりを築くことができた。その繋がりが一時的なものとならないよう、国際交流の継続に引き続き務める。特に一部の参加者にてフィリピンやミャンマーとルームシェアや観光を共にすることで従来に比べ、より親密な関係を築くことができた。

４．３　継続参加による日本のプレゼンス強化

CAFEO にて２件の口頭発表を行ったことで、日本の存在感を大きく示すことができた。特に防災セミナーでの発表においては、子供に対する防災教育の取り組みが高く評価され、地震を始めとした自然災害の多い日本における防災意識と高さと、遊びながら学ぶ教育方法に対して高い関心が寄せられた。Welcome Dinner および Closing ceremony and dinner では空手演武や日本の人気グループのダンスの披露、袴や浴衣を着用して出席することで、文化面においても日本の存在感を大いに示すことができた。

４．４　国際交流に関心を持つ日本人参加者同士の交流

参加者は海外での技術交流に関心を持った技術者である。YEAFEO プログラムへの参加だけでなく、移動や懇親会にて意見交換や議論を通じて、交流することができた。特に国際交流を通して海外に日本の技術者が貢献をしていくために、日本として何ができるのか、語学はどのように学習するか等、意欲的な議論が散見された。今年の YEAFEO には統括本部以外に、近畿本部、中国本部からも参加頂いたことから、個人間の交流だけではなく、青年技術士交流委員会間の交流も促進することができた。

５．活動詳細

主な参加イベントに関して、以下に報告する。

５．１　９月 10 日（Welcome Dinner）

CAFEO、YEAFEO 合同での盛大な歓迎会が開催され、本歓迎会では、各出席者が座席に着席し、コース料理を頂く形式であった。昨年と同様、大会前日の夜に開催された。

余興として空手演武と日本の人気グループのダンスを披露した。各国の参加者の中には、昨年踊ったことを覚えていた方も多く、一緒に踊ることで非常に盛り上がった。余興は毎年変える必要は無く、各国の参加者が振り付けを覚えてくれるまで続けるというのが良いという所感を得た。

５．２　９月 11 日

(1) YEAFEO meeting

当日急遽大幅な時間変更があり、なかなか足並みがそろわない中、YEAFEO のミーティングが行われた。YEAFEO への各国の参加状況に関して温度差があることに関し、事務局を中心として議論がなされた。毎年参加する国もあれば、そうでない国もあり、また参加者数もまちまちである。（マレーシア、ミャンマー、カンボジア等は参加者が多く、ベトナムは不参加であることも多い。）事務局は継続的、積極的な参加を呼びかけたい考えで、CAFEO 事務局からの補助金等の仕組みがあることの説明等がなされた。

CAFEO／YEAFEO は ASEAN 諸国の友好交流の場でもあり、公式な立場での積極的な参加を呼びかけたい模様。また、FEIAP (Federation of Engineering Institutions of Asia and Pacific) での Youth Talents Development WG の設立に関する紹介も行われた。YEAFEO とは参加費を互いに減免する連携を行っており、今回は非 ASEAN 加盟国でありながら FEIAP 加盟国である香港、日本の 36 歳以下の参加者は参加費を 100USD に減免された。（今回からの試み）

YEAFEO 及び FEIAP-WG ではマレーシアが中心的な存在感を示しており、アジア・太平洋地域での求心力を高めたい意欲が伺える。

(2) Technical visit “SOSROBAHU”

深夜、SOSROBAHU と呼ばれる橋脚のピア施工技術のデモンストレーションが行われた。本技術は橋脚上のピア部を道路と並行に施工した後、90 度回転して据え付けを行うもので、インドネシアの技術者 Tjokorda Raka Sukawati 氏により開発された。本技術は既設主要道路上に道路を新設する際、既設道路の規制を最小限に抑えることができることから、常に渋滞が発生するジャカルタの交通事情に適した技術である。

５．３　９月 12 日

(1) Gift exchange

日本の Gift として和凧を持参した。武士が描かれている日本的なデザインだけではなく、厚みがなく、かつ軽量である点が好評であった。Gift 交換の際には、「実際に飛ばすことができるのか？」といった質問があり、文化的な交流の一助となった。

(2) Country Report

各国の 1 年間の活動報告がなされた。日本は青年技術士交流委員会の 1 年の活動報告と代表的な技術（東京オリンピックの開催を控え、AI、IoT 技術や、バイオ燃料の技術開発）の紹介を行った。発表は 3 名（竹内氏、高木氏、長谷川氏）で分担して行った。

(3) Oral Presentation for CAFEO and for Disaster Preparedness WG

AFEO の事務局 Ms. BE Ooi 氏の講演依頼を受け、CAFEO 内の Disaster Preparedness Working Group で日本代表として、日本における代表的な災害対策を発表する機会を得た。

本発表は、8 月イベント「青年委員会・建設部会　合同テクノ」の内容をまとめたものである。本イベントでは、東京臨海広域防災公園を開催場所として、東京直下で大地震が発生した場合のインフラ施設の役割、そして自らの命を守るための防災教育について学んだ内容について講演した。

本発表には約 100 名程度の聴講者が参加しており、聴講者からの関心の高さを感じるとともに、報告者の講演後、多くの聴講者から良い発表だったとのお褒めのお言葉を頂いた。特に「ポケドボ」を用いたカードゲームは子供も含め、防災教育を楽しく学べるものとして、聴講者からの大きな興味が得られた。

本イベントを CAFEO37 で講演できたことは大変貴重な機会であり、また日本土木学会若手パワーアップ小委員会が制作した「ポケドボ」を海外の技術者にアピールできたことも良い機会であったと感じている。本発表への参加を通して、日本のプレゼンスを大きく示せることができた。

(4) Technical tour to AHA center for Disaster Preparedness WG

Disaster Preparedness WG のテクノツアーとして、本 WG 参加者はバスで AHA センターに移動した。AHA センターは、2011 年 11 月の第 19 回 ASEAN 首脳会議において設立協定が結ばれ、インドネシア（ジャカルタ）に設立された施設である。AHA センターには、ASEAN 地域の防災拠点としての機能が想定されており、平常時には、ASEAN 域内の災害時のリスク評価を行うとともに、継続的に ASEAN 域内の状況を監視すること、また災害が発生した際は、ASEAN 各国と災害情報を共有し、緊急対応の調整の中心的な役割を担っているとのことであった。

特に台風や竜巻等といった自然災害時における緊急時においては、本センターの役割は非常に重要であり、実際にどのように自然災害を事前に予測し、万が一、災害が発生した際にはどのように対応しているのかを間近で知ることができた。

(5) YEAFEO GALA Dinner

夕食は YEAFEO による懇親会が行われた。会場は郊外レストランの一部を貸し切って行われ、ビュッフェ形式であった。インドネシアはイスラム圏であるため飲酒に厳しいが、ここではビールを注文可能であった。

また会場には舞台があり、そこで歌手と奏者によって、様々な国の曲が演奏され、会場は大いに盛り上がった。本会の最後には、Welcome Dinner での日本の余興と同じ楽曲を流して頂き、全員で踊ることで海外の方との懇親を大いに深めることができた。

５．３　９月 13 日

(1) Technical visit “gojeck”,”MRTJ”,” Ministry of Public Works”

個人タクシー配車をはじめとした輸送・配送・決済サービスを提供する gojek は、インドネシアを代表する IT 企業の一つである。gojek が提供するサービスは多くの市民が利用しており、AI や機械学習を用いて常に最適化がなされている。2019 年 3 月に開業した MRTJ はジャカルタの交通渋滞の緩和を目的とした鉄道路線であり、日本製の車輌の使用、また日本の鉄道会社が保守コンサルタントを請け負うなど日本の協力が伺えた。Ministry of Public Works では、

パーティによる歓迎を受けたことから、インドネシアでは技術者が政府より高く評価されている状況が垣間見えた。

(2) Closing ceremony and Dinner

CAFEO、YEAFEO 合同でお別れ会が開催された。ドレスコードはスーツ or 民族衣装ということで、半数以上の方々が色鮮やかな民族衣装や民族舞踊の衣装を身にまとい、各所で文化交流がなされていた。
日本は参加者メンバー全員が空手道着、袴または浴衣で参加したところ、各国の参加者（老若男女問わず）から写真を一緒に撮って欲しいとの依頼が多く、コミュニケーションのきっかけとして有効であった。このように日本の文化に興味を持って頂けるよい機会であるので、来年以降も浴衣等の衣装での参加を続けて行きたい。

５．４ ９月 14 日

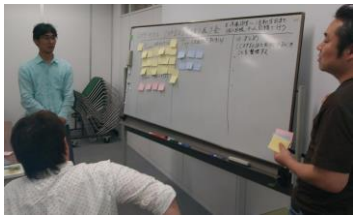
(1) Technical visit “Menara Astra Tower”

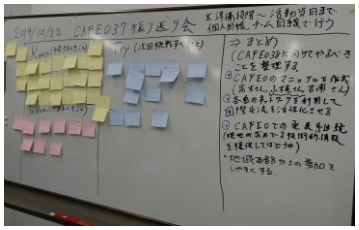
午前中は Menara Astra Tower を訪れた。このビルは日建設計が意匠設計、清水建設とインドネシアの建設会社の JV によって建設された。雨水を利用した節水技術、室温を一定に保ち、かつ清浄機能を備えた空調を有する等、環境に配慮した超高層ビルである。

(2) Bidadari Island Tour

午後は Bidadari Island に移動し、ランチパーティが催された。その後、記念撮影やバレーボール等を通じて参加者同士の親交を深めた。

６．帰国後の振り返り





日本へ帰国した後、振返り手法の一つである「KPT」を使用して振り返りを実施した。ここでは青年委員だけでなく一般からの参加者にも参加いただいた。今回の振返り結果を活かし、来年以降、CAFEO/YEAFEO の参加準備から参加当日までの対応について、更なる効率化、高密度化を図る。
振返りの結果、来年度取り組むべき内容は以下の通りとなった。

・CAFEO のマニュアルを作成する。
・各自のネットワークを活用して、更に国際交流を活性化させる。
・CAFEO への発表を継続すること。（特に各自の口頭発表）
・地域本部から参加しやすい雰囲気を作る。
　振り返り自体も帰国後の参加者同士の交流のきっかけになるため、とても有意義であった。

７．今後の展望

・ASEAN 諸国の技術者とのつながりは SNS 等を活用して継続していき、来年以降の CAFEO/YEAFEO の人脈構築、信頼関係の深化につなげていく。
・地域本部を通して全国の若手技術者へ研鑽機会を提供できるよう、連携をより強化していく。

・帰国後も振り返りなどのイベントや、その他青年委員の CPD イベントなど一般参加者同士が交流できる場を提供し、継続参加しやすい環境を作る。
・会期中、積極的に英語で発言を行うことをひとつの目標とし、そのために事前に英語学習を行うことも検討していく。
・今までの事前勉強会は政治、文化、教育体制など大きなテーマであったが、実際の会話に活かせるような技術的な内容（特に日本での SDGs の取り組みなど）などもテーマに入れることを検討する。
・今回、CAFEO で青年の取り組みを口頭発表したことはとても好評であったため、来年度も発表することを検討する。

以上